

Ⅱ 財政を見る出発点～決算カードの見方と評価

- ①決算カードの入手～「市町村決算カード」で検索⇒各県別に市町村の個別決算カードが出てきます。
- ②決算カード(平成〇〇年度決算状況)は用紙1枚の中に、自治体の人口、面積、産業構造、歳入状況、税収の状況、歳出の状況(性質別・目的別)、財政指標等の情報がコンパクトに記載されています。
- ③分析・評価の仕方～決算資料を経年的に見てその変化の原因を調べることと、他の自治体(特に類似団体と近隣自治体)と比較してみるとその自治体の財政の特徴が見えてきます。(市町村財政比較分析表、市町村経常経費分析表などを利用)
- ④歳入をみる～4大財源(地方税、地方交付税、国庫支出金、地方債)をみて、構成比率と推移をみる。一般財源と特定財源、経常一般財源と臨時一般財源、経常一般財源の内訳(地方税・普通交付税・その他)、地方税の内訳(市町村民税・固定資産税・その他)、市町村民税の内訳(個人分・法人分)などを見て、まちの地域特性を考える。
- ⑤財政力指数と地方交付税の関係～基準財政需要額、基準財政収入額、財源不足額、臨時財政対策再振替額などを、交付税算定台帳で確認する。(トップランナー方式とは?)
- ⑥国庫支出金～国庫負担金(国と自治体が共同責任を持つ事務事業への国の負担分)・国庫補助金(国が自治体に奨励する事業への補助)・国庫委託金(国の事務を自治体に委託する場合の国からの交付金)
- ⑦地方債～地方債という自治体の借金は、本来財政赤字を意味するものではない。地方債制度は財政負担の世代間公平のための制度。しかし近年、減収補てん債、臨時財政対策債など赤字地方債と呼ぶことのできる地方債の比率が大きくなっている。
- ⑧歳出を見る～どこにお金を使っているか。決算カードでは、性質別歳出(経費別)と目的別歳出(行政分野別)がある。これを見ることで事務事業のどこに力を入れているかわかる。
- ⑨財政力指数(自治体の財政の基礎力)や将来負担比率(将来的な住民負担)、経常収支比率(財政の余裕度・弾力性)などの指標を経年的に、また他自治体と比較すると自治体の財政実態の輪郭が見えてくる。

それでは、上尾市、秩父市、東秩父村、武蔵野市(東京都)、豊田市(愛知県)夕張市(北海道)、明石市(兵庫県)、飛島村(愛知県)、阿智村(長野県)の決算カードを例に、財政の基本を大まかに考えてみましょう。